

ビニル床Pタイル基本施工

下地の点検・調整	下地の乾燥、強度、平滑度などについてチェックする。 点検の結果、著しい不都合がある場合は、協議のうえ下地補修材『フラッター』などで下地の調整を行う。
材料の搬入・保管	材料を指定箇所に搬入し、数量、ロットの確認を行う。 複数ロットで入荷している場合は、施工箇所毎に材料の積み分けを行う。 床タイルは癖がつかないように水平な状態で、また接着剤は5℃以上の状態で保管する。
ケレン・清掃	下地の突起などは、確実にケレン除去し、掃除機などで下地面をよく清掃する。
割り付け	割付の方法に特別の指示がある場合は、指示のデザインに従う。 それ以外の場合は、原則として材料のロスが少なく、周辺部に極端に小さなカット物が入らないように割り付ける。
接着剤の塗布	接着剤(エコロイヤルセメント)の塗布は、規定のくし目ごてを使用し、作業中くし目がすり減った場合は 調整を行う。1回の塗布面積は、貼り付け可能時間内に床タイルを貼り終える面積とし、壁際・柱周りは中央部を貼り終えた後、接着剤を塗布する
オープンタイム	接着剤の皮膜にべたつきが生じる状態を目安にする。
貼り付け	基本線に沿わせ目地を通しながら壁際に向かって貼り込む。 壁際・柱周りなど最後の1列を残して貼り込み、これらの部分は最後にまとめて貼り上げる。
カット	壁際に貼る床タイルを、最後の列の床タイルに正確に重ね、別の床タイルを壁際にあてるなどして採寸を行い、カッターナイフなどで切り込む。厚物の床タイルでは、切り口が盛り上がることもあるので、軽カンナがけを行う。
冬期の施工	貼り付け時の室温が、冬期で5℃以下に下がった場合は、ヒーターなどで採暖して、室温を10℃以上に保ちながら、床タイルを室温になじませたうえ、目地を詰めすぎないように施工する。
圧着	平場は45kgローラーなどで、壁際・カット部はハンドローラーなどを使用して圧着可能時間内に良く圧着する。冬期の施工では、貼り付け時の圧着を入念に行う必要がある。
施工後の点検	目違い、浮き、汚れなどの不具合の有無を点検し、不具合がある場合は、処理を行う。
養生	施工完了後、関連業者などの土足による床面の汚染・損傷を防ぐ為、土足を禁じ、歩行量の多い場所には養生シートなどで養生しておく。